

令和4年8月 認知症ビジョンを視聴して

感想・コメント・メッセージ	所属
<p>誰しものが認知症になるかもしれません。それを恐怖と感じながら生きるか、まあ大丈夫だろうと感じるか。近所に認知症の人がいても、それが当たり前風景になればいいなあと思います。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>当事者の『先回りをして』と言う言葉に、思わずドキッとしました。何気なく、良かれと思い、当事者の意見を聞くまえに、先に関わる側の意見を伝えていた事が多かった自分がいたと思いました。これからは、『話し合う』と言う事を意識して、パートナーとなれるように日々学びを深めていこうと思いました。</p>	<p>介護保険施設 (特養、老健、グループホームなど)</p>
<p>介護保険の財政は年々厳しくなっており、そのしわ寄せが現場職員の事務作業に来ていていると思います。認知症になったらデイ、ショート、施設ではなく、そのまま生活できる環境をつくるのが介護保険の財政を圧迫させない、制度を継続させる政策かと思っています。それを改めての動画を見て考えました。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>認知症と言っても症状はそれぞれ。症状や大変さに視点が行きがちで家族も不安になることはわかるけれど CM としては本人の支障を周囲にもわかってもらえるよう関わることで 動画に参加された方々のように楽しく普通に過ごせるのだと感じた。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>義理の父は、認知症と診断されたときに、医師から直接告げられました。家族はそれを一緒に聞いたことを思い出しました。通院時は、父が思うことを直接話してもらい、その後普段の状況を家族が伝える。当たり前にしたところですが、やはり大多数のご家庭は、家族が診断を告げられ、本人抜きに（頭を通り越す感じ）進められることが多いです。認知症になっても出来る事は行い、できないことへの応援する。を心掛けても、その通りに行かないこともあります。支援する CM も同じ視点で考える事から始めたいと思います。家庭でできる事、外部の人と接触してできる事、その視点をきちんと言葉に表して、できないと決めつけずに、その人ができているのをきちんと具体化したいと思います。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>冒頭の方が「人のために何か出来る事があればやるというのが基本」との話聞き、認知症になっても、自分で出来ることは続けてやっていきたいというのは変わらない。その人・その人の人生の歩みを理解し、尊重することが大事と感じました。 出演している橋浦さんが「認知症の偏見」について話をしてもらっていま</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>

<p>すが、まずは支援者自身が認知症に対しての偏見・壁を無くすことから始めないといけない。「認知症だから、早めに介護保険」ではなく、本人の気持ちにくみとり、その人が何を求めているのか、その人の自立支援について改めて考えていく必要があると思いました。</p>	
<p>超高齢化社会の中、長生きすれば誰もが認知症になるんだろうと思っています。私だって例外ではないと思っています。私の父も認知症の診断を受け、自宅で暮らしています。昔は怒りっぽい人でしたが今は陽気に笑い冗談を言いながら、好きな物を食べ、好きなことをして過ごしています。誰もが認知症の理解がある社会になって欲しいと願います。</p>	<p>介護保険施設 (特養、老健、グループホームなど)</p>
<p>「一方的に困りごとを聞かれるような関係ではなく。」という言葉がとても印象に残りました。 私たちケアマネジャーは、待ったり、何もしない。ということに不安を感じる、と聞くことがあります。まさにそうだと再認識させられました。 当事者主体で、その方が希望する生活の仕方に、一人では大変なところがあれば私たちが専門性を発揮して一緒に考える。出発は当事者の方の思い、希望であるべきだと。改めて感じました。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>対等な関係性を築くための対話・環境（関わる人）の構築は難しいなあ～と思う。周囲をみても、偏見やグルーピング（群れる）は日常的にあると思う。支援が必要になり「支援する人・される人」が生まれる。社会全体が世代・障がい・病気関係なく対等な関係性でいられることができれば、主体的に生きるための選択肢がたくさんあったら、いきいきと過ごせる社会になるのになと考えさせられました。 支援者はいつも「人のためになりたい」と強く思うので、余計なことをすることも多いのだと思う。本人の思いをくみ取れるように対話術を磨いていきたいと思います。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>認知症になっても、自分のことは自分で決めたい、誰かの役に立ちたい、好きなことをしながら暮らしていきたい・・・。認知症でもどうやって生きていきたいか、考えてたり感じたりすることは私たちと同じです。しかし、先入観からか、「認知症になれば、～が出来なくなった」「何かしてあげなくては」と本人抜きで勝手に決めてしまっているのが現状とを感じる。これからは、一方的な支援ではなく、本人主体となり一丸となって暮らしていくように社会を作っていくなくてはと感じました。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>本人の考えや思いが伝わる動画でした！ 病気との向き合い方や診断後の今までと変わらない暮らしを続けたい強い思いが、周囲を巻き込む力に発展することを私も願います！</p>	<p>地域包括支援センター</p>
<p>このままだと「認知症のある人にどんな支援が必要なのか」ということを</p>	<p>相談センター</p>

<p>考える地域社会になってしまうことに警笛を鳴らしていると感じました。そして困るのは、私たちみんなであること。これから重要なことは、人間の尊厳の尊重という人のあたりまえ（人権）を軸（理念）とし、当事者本人と一緒に地域づくりを考えていくこと。困っている本人がいれば、本人の困りごとを聞いて、話し合い合理的配慮するのもあたりまえなこと。しかし、社会にはまだまだ認知症についての間違った演出もあり、それは大きな誤解（「差別」や「偏見」）を生み出すと理解しました。ん・・このような感想を書いているが、自分の中にもまだまだ認知症への無意識の差別や偏見があると思っています。自分のことは自分一人では気づけないので、当事者本人の声を聴きながら、いろんな人たちと考える機会を持ち、少しでも自分に敏感になっていけたらと思います。みなさんこれからもどうぞよろしくお願いいたします。</p>	
<p>認知症当事者と対等である事、意識したい。当事者の「生」の声、思い、衝撃でした。 当院の認知症ケア委員会から、なんらかの方法でこのような声がある事を他スタッフに発信して欲しい。 丹野さん方々、ありがとうございました。</p>	医療機関
<p>認知症だからとまだまだ偏見は多いと思います。支援する側、される側の関係ではなく、パートナーとして見守る姿勢が大切であり、できる事を奪ってしまう事はその方の役割や生きがいまで奪ってしまう。困難な事があっても伴走者として寄り添う事が大切だと改めて実感しました。認知症になっても、今まで通り自分らしく生きていけるように、当たり前で尊重される社会が築けるように、1人ひとりが自分が当事者だったらと本人の視点で考える事を必要だと思いました。介護に携わる者として、意識して取り組んでいこうと思います。</p>	介護保険施設（特養、老健、グループホームなど）
<p>認知症への理解を広める活動の必要性があると思います。認知症＝ボケた と考える方がまだまだ多いのが現実だと、＝何も分からない、出来ない と決めつけ接する方が多いと感じます。</p>	介護保険事業所（デイサービス、訪問介護事業所など）
<p>認知症の人にかかわらず、ご家族の方をみてご本人様を見ない。先に家族に挨拶をする。できる部分も介助する。等 目にするのがあり。 一人ひとり様々な環境で生活し、支障も様々で、支障があっても工夫して行うこともできたり、声掛け、道具を使用することでできたり。ご本人様の意思を尊重する。病名で判断するのではなく、現状の困りごとの正しい</p>	居宅介護支援事業所

<p>理解が重要である。</p>	
<p>丹野智文さんの「認知症の私から見える社会」を購入し、読ませていただきました。この動画にもあるように、認知症と診断された日を境に、その人個人への接し方や見方が変わってしまうこと、それはおそらく、世間一般の方々が「認知症とはどういった症状が現れ、認知症の方とどう接したら良いのかが分からないから」だと思います。また、認知症になり「徘徊して困る」「何回も同じことを聞かれ困る」「抵抗ばかりして困る」…と、認知症になると「困る」「大変」というイメージが先走りしているのも現状のように思われます。まずは「認知症」をしっかりと理解していただくこと、そのために私もいろいろと業務を通じ、私なりに努力する所存であります。これからも応援しております。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>昔に比べれば、少しずつ認知症に対する理解も進んできたような気もしますが、まだまだ「痴呆」「ぼけ」「何もわからない」という意識を持っている人も多いと感じています。どんな病気も、決してなりたくないのになってしまうのですが、例えば癌は認めて周りに公表出来ても、認知症は隠している、という人もまだ多いです。介護業界以外の人からは、悪意はなくても「接したことがなくて、病気自体も認知症の人のことも全く分からない」と言われるので、一応こちらもしっかりと説明したりはするのですが、認知症に限らず要介護者が「できること」よりも、「できないこと」が目立ってしまって（例えばトイレの失敗とか）、親切な顔をされながらも迷惑な雰囲気を出されて、次回からその場に行きづらくなる、ということもあります。こちら、家族や利用者さんに嫌な思いをしてほしくないのと、ついそういう場所は避けてしまいます。と、偉そうなことを言いながら、自分が将来認知症と言われた時に一体自分はどんな反応をするんだろうと考えると、やっぱりまだ自分の中にも偏見や恐れがある？と思います。利用者さんとフラットな関係でいることを意識してはいるのですが、本人の前で言えないこともあったりすると、裏で先生と家族とだけ話をしてたり。。。何がいいのか、難しいですね。最近、ACのCMで、レジでの支払い動作が遅い年配の女性に「あなたのペースでいいんだぜ」とラップするCMが話題になってましたが、例えば「私、糖尿なんだ」「血压高いんだ」レベルで「認知症なんだ」と話題にできる世の中になると、私を含め色々な人が生きやすくなるんじゃないかと期待してます。頑張ってください。</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>
<p>安心して認知症になれる世の中を目指す、という考え方に賛成です。でも動画を見て、自分もつい認知症の方と関わる時、支援する側という意識がまだあるように思い反省しました。認知症というだけで何もできなくなる</p>	<p>居宅介護支援事業所</p>

<p>ように考える方はまだまだ多いと思います。だから声を上げてもらってからそれに気付かされる人も多いのではないのでしょうか。条例の制定に向けて可能な限り応援していきたいと思います。</p>	
<p>認知症になったからといって人でなくなるわけではありません。しっかりとした人格があり一人の人間として尊重されます。特別扱いではなく、普段の通りの接し方でコミュニケーションを図っていくことが大切だと思います。本人主体の考えでパートナーとしての関わり合いを持っていきます。地域の一員、仲間として一緒に暮らしていくためにお互いに話し合い進めていきます。介護従事者として対等な関係でありたいと思いました。</p>	居宅介護支援事業所